

症例検討

原因不明の慢性貧血例

東長良店

慢性的な貧血が続き、いくつかの対策が取られたが改善はみられず、原因が不明のまま 1 年近くにわたり月に 1 回の輸血を余儀なくされていました。しかし、その後、原因と思われる疾患が推定されて適切な薬剤が投与され、貧血が改善して輸血を中止、日常生活にも改善がみられている例をあげました。

症例 K.S. さん（男性，77 歳）

H19. 4～ 平成調剤薬局東長良店 来店

N病院 フリバス錠 25mg 1T/分 1 朝食後

Mクリニック アロプリノール錠 100mg\*<sup>1</sup> 2T/分 2 朝夕食後

H20. 10. 1 G病院： 貧血が続いているため、輸血が必要といわれた。20 年前にみられた異形成性の造血機能異常悪化の可能性が考えられた。

H21. 4. 3 G病院： 貧血の原因が見いだせず、アロプリノールを中止して様子を見るように言われ、アロプリノール減量  
理由：アロプリノールの副作用による貧血の可能性があり、浮腫が出たため

H21. 4. 22 : アロプリノール中止

ラシックス錠 20mg 1T/分 1 朝食後（むくみの強い時）

H21. 6. 5 : アロプリノール中止後も貧血は改善されず、尿酸値が 10.2 に上昇したため、アロプリノール錠（2T/分 2 朝夕食後）を再開  
輸血（1 回目）

H21. 7 : 輸血（2 回目）

H21. 9 : むくみがとれ、利尿剤中止

H21. 10～ : 輸血（月に 1 回）

H22. 輸血継続

H22. 2. 5 : Hb 量 5 mg/dl

- H22. 3. 5 : 血液検査の結果、赤血球だけの減少がみられる赤芽球ろう（癆）\*<sup>2</sup>の可能性が指摘された。  
ネオラール 50 mg カプセル\*<sup>3</sup> 1C 朝食後 開始
- H22. 3. 15 : ネオラール増量（腎障害はみられていない）  
胃腸薬併用

処方			
1)	ネオラール 50 mg カプセル	1C	
	ネオラール 25 mg カプセル	1C	
			分1 朝食後
2)	プロテカジン 10mg	1T/分1	朝食後
4)	ミヤ BM 錠	3T/分3	毎食後

現在まで継続中

- H22. 4. 23 : 赤血球数増加 250 万/mm<sup>3</sup> → 300 万/mm<sup>3</sup>  
体調の改善がみられる  
輸血を中止  
血圧の上昇がみられる
- H22. 6. 25 : Hb 量 9.9 mg/dl  
坂道を歩いても息切れがしなくなった。
- H22. 6. 30 Mクリニック : ミカルディス 20mg 1T/分1 朝食後 追加  
(血圧上昇 140~150 mmHg (上) が続くため)  
現在に至る

\*<sup>1</sup>アロプリノールの副作用

一般的には少ない。

皮膚症状、再生不良性貧血、劇症肝炎、血管炎、重篤な粘膜眼症候群

\*<sup>2</sup>赤芽球ろう（癆）：赤血球だけが減少する再生不良性貧血の一種  
(<http://hinketu.sakura.ne.jp/sekigakyurou.html>)

赤芽球癆は再生不良性貧血の中で特殊なタイプとされており、再生不良性貧血は赤血球だけでなく白血球や血小板も減少するのが特徴ですが、赤芽球癆は赤血球だけが減り白血球と血小板は正常範囲にあります。このような違いがあるにも関わらず赤芽球癆が再生不良性貧血に分類されているのは、赤芽球癆が再生不良性貧血と同様に造血幹細胞の異常によって引き起こされるからです。

赤血球は造血幹細胞から赤血球系幹細胞、前赤芽球、赤芽球、網赤血球という段階を経て成熟した赤血球になります。赤芽球癆という病気は、骨髄においてこの赤芽球が激減し、赤血球産生が低下する事で貧血症状を起こす疾患なのです。

赤芽球癆には急性と慢性があり、急性ではウイルスや薬剤によって赤血球系幹細胞が障害を受ける事が原因であるとされています。慢性では免疫機構を司る胸腺に腫瘍を併発する事から、自分のリンパ球が赤血球系幹細胞を攻撃する自己免疫疾患の一種と考えられています。治療は再生不良性貧血の中等症や重症の場合と同様に、免疫抑制療法を行います。

\*<sup>3</sup>ネオラル (一般名：シクロスポリン)

【効能又は効果】(添付文書情報から)

1. 下記の臓器移植における拒絶反応の抑制  
腎移植、肝移植、心移植、肺移植、膵移植
2. 骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制
3. ベーチェット病 (眼症状のある場合)
4. 尋常性乾癬 (皮疹が全身の 30%以上に及ぶものあるいは難治性の場合)、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬
5. 再生不良性貧血 (重症)、**赤芽球癆**
6. ネフローゼ症候群 (頻回再発型あるいはステロイドに抵抗性を示す場合)
7. 全身型重症筋無力症 (胸腺摘出後の治療において、ステロイド剤の投与が効果不十分、又は副作用により困難な場合)
8. アトピー性皮膚炎 (既存治療で十分な効果が得られない患者)